

第 章

福生市の商業環境

1

商店街の現状と その取り組み

1. 商店街の現状とその取り組み

(1) 福生市内商業地域の位置・状況

大型店を中心に、市内商業は5カ所への集中が進んでいる。

福生市内商業地域の位置・状況等

前述した通り商業統計によると福生市内には577の小売業が存在するが、これら商店は市内に広く分散しており、商業統計表(立地環境特性別統計)上の商業集積地区¹は5カ所(212事業所)のみとなっている。このような中、各商店は市内の各地域で合計12の商栄会等を組織して商業振興活動を実施している。



(出所) 地図は福生市商工会ホームページより引用

¹ 主に都市計画法8条に定める「用途地域」のうち、商業地域および近隣商業地域であって、商店街を形成している地区をいう。概ね一つの商店街を一つの商業集積地としており、一つの商店街とは、小売店、飲食店およびサービスを営む事業所が近接して30店舗以上あるものをいう。

第 章 福生市の商業環境 1. 商店街の現状とその取り組み

地図中の番号は「2. テナント構成」を参照

上記5商業集積地区の動向をみると、集積地区の商店数、従業者数、年間商品販売額の合計は小売業全体の40%、売場面積では60%弱を占めているが、5年前と比較すると、集積地区は商店数を除く項目で増加しており、小売業全体に占める割合は全ての項目で上昇している。

もっとも、地区別にみると、5年前と比較して、年間商品販売額は福生駅東口と福生駅西口は増加傾向にあるが、横田・武蔵野商店街、牛浜駅周辺および銀座通り商店街は減少傾向にある等、立地により景況は異なっている。特に増加幅の大きい福生駅東口には西友福生店があり、同店が平成16年に実施した大規模改装が大きく影響している。

(図表) 商業集積地別の推移

(単位:店、人、百万円、㎡)

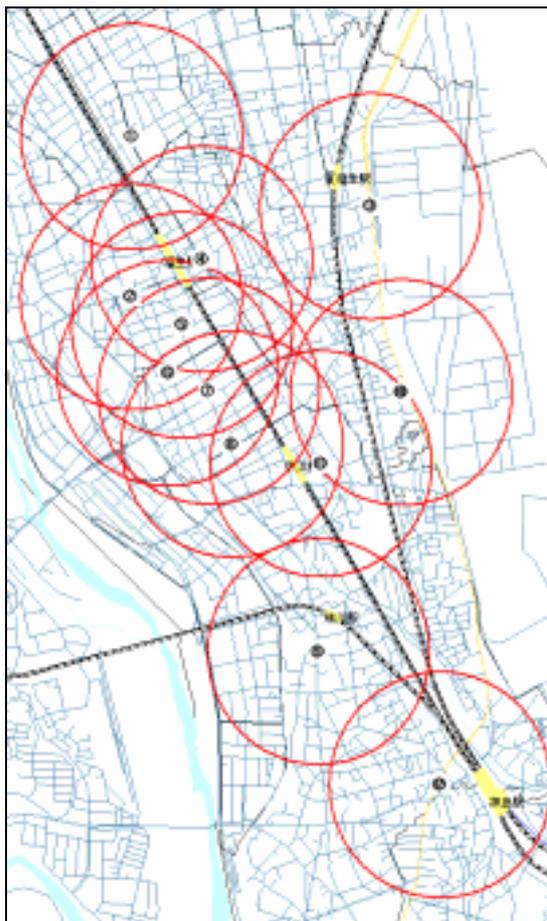
	2007年															
	商店数			従業者数			年間商品販売額			売場面積						
		構成比	3年前比		構成比	3年前比		構成比	3年前比		構成比	3年前比				
福生駅東口	34	16.0%	113.3%	446	31.0%	87.6%	10,080	43.0%	608.3%	22,311	56.3%	570.5%				
福生駅西口	51	24.1%	94.4%	346	24.1%	103.6%	3,770	16.1%	96.7%	5,634	14.2%	96.4%				
牛浜駅周辺	20	9.4%	80.0%	180	12.5%	67.9%	4,593	19.6%	103.5%	2,310	5.8%	97.3%				
横田・武蔵野商店街	51	24.1%	89.5%	189	13.1%	111.8%	1,801	7.7%	94.5%	4,368	11.0%	107.7%				
銀座通り商店街	56	26.4%	93.3%	277	19.3%	77.2%	3,219	13.7%	79.6%	5,005	12.6%	83.8%				
商業集積地計(A)	212	100.0%	93.8%	1,438	100.0%	87.9%	23,463	100.0%	147.2%	39,628	100.0%	178.8%				
小売業計(B)	499		89.7%	3,208		90.1%	56,919		106.4%	69,563		133.9%				
(A/B)	42.5%			44.8%			41.2%			57.0%						
	2004年						2002年									
	商店数		従業者数		年間商品販売額		売場面積		商店数		従業者数		年間商品販売額		売場面積	
		2年前比		2年前比		2年前比		2年前比		2年前比		2年前比		2年前比		2年前比
福生駅東口	30	136.4%	509	278.1%	1,657	22.2%	3,911	160.0%	22	183	7,458	2,445				
福生駅西口	54	100.0%	334	127.5%	3,900	134.2%	5,843	143.6%	54	262	2,906	4,069				
牛浜駅周辺	25	83.3%	265	106.9%	4,436	93.7%	2,374	88.9%	30	248	4,733	2,670				
横田・武蔵野商店街	57	116.3%	169	92.9%	1,905	96.3%	4,057	90.8%	49	182	1,979	4,466				
銀座通り商店街	60	80.0%	359	95.2%	4,046	98.4%	5,976	138.3%	75	377	4,111	4,322				
商業集積地計(A)	226	98.3%	1,636	130.7%	15,944	75.3%	22,161	123.3%	230	1,252	21,187	17,972				
小売業計(B)	556	97.0%	3,561	104.3%	53,484	86.0%	51,969	110.9%	573	3,414	62,165	46,877				
(A/B)	40.6%		45.9%		29.8%		42.6%		40.1%		36.7%		34.1%		38.3%	

(出所) 経済産業省「商業統計表 立地環境特性格別統計編(小売業)」より作成

(2) 商店街周辺の人口密度

商店街は周辺住民の消費行動を完全に吸収しきれない状態にある。

市内商店街周辺の人口密度について見てみると、熊川商栄会、東銀座通り商栄会付近で高く、福生武蔵野商栄会・横田商栄会からなる国道16号沿いの商店街で低くなっている。上述統計資料と比較しても、商店街周辺の人口密度と商店数等は比例しておらず、周辺住民の消費行動を吸収しきれない商店街となっている。



<各商店街から半径500m圏内の人口密度>	
商店街名	国勢調査人口密度 (2005)(人/km ²)
本八商栄会	7737.1
ハッピータウン	5223.2
横田商栄会	4014.5
東口駅前商栄会	5986.0
栄通り商栄会	6631.1
銀座商栄会	7742.7
銀座中央商栄会	8367.0
東銀座通り商栄会	8903.7
熊川商栄会	9315.9
福生武蔵野商店街	3908.2
牛浜商栄会	7251.5
熊川武蔵野商栄会	8596.9

(出所) 株式会社日本統計センター提供

(3) テナント構成

主要商店街の約30%が、空き店舗や駐車場になっている。

調査概要

各商店街におけるテナント構成及びナショナルチェーン比率を把握するため、以下の通りテナント構成調査を実施した。

ア. 調査対象

市内6つの商店街等(下記地図上の ~)において調査を実施した。
 なお、調査は道路に面しているテナント及び土地を対象とした。具体的な調査範囲は以下の図に示す通り。

東口駅前商栄会



福生武蔵野商店街



横田商栄会



銀座通り（銀座商栄会 銀座中央商栄会 東銀座通り商栄会）



栄通り商栄会



ハッピータウン



イ. 実施概要

各地点・時間帯において、調査員 2、3 名が計 4 日間の調査を行った。

調査日	調査時間	天気
平成21年9月12日(土)	10:00~18:00	くもり
平成21年9月16日(水)	10:00~17:30	晴れ
平成21年9月26日(土)	10:00~17:30	晴れ
平成21年10月6日(火)	9:00~11:00	雨

ウ. 調査項目

以下の項目について、各地点において目視でチェックした。

小売業	1. 食料品中心店	2. 衣料品中心店
	3. 住関連中心店(家具、建具等)	4. その他小売
サービス	5. 飲食店(夜間遊興)	6. 飲食店(その他)
	7. 理・美容院	8. 病院
		9. その他サービス
その他	10. 空き店舗	11. 空き地
		12. 駐車場

調査結果

ア. 業種区分

各商店街のテナント構成は以下の表のような結果となった。

- ・横田商栄会・福生武蔵野商店街では衣料品中心店が多い。
- ・東口駅前商栄会には、夜間遊興飲食店が密集している。
- ・ハッピータウンは「その他サービス」が多く不動産店や銀行等が含まれる。
- ・銀座通りは空き地・空き店舗・駐車場としての土地利用が多い。

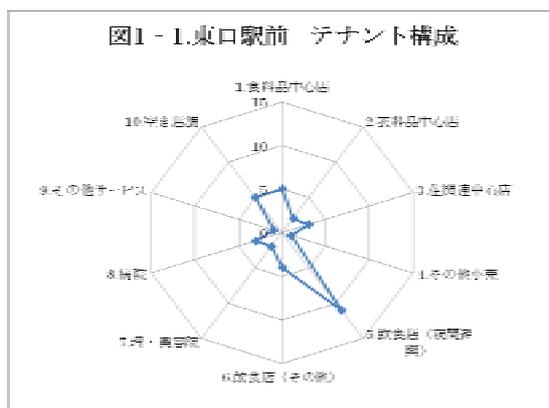
* 銀座通りは、銀座商栄会・銀座中央商栄会・東銀座通り商栄会の3商栄会

区分1	区分2	栄通り	東口駅前	銀座通り	横田	福生 武蔵野	ハッピー タウン	計
小売	1.食料品中心店	7	5	15	0	2	12	41
	2.衣料品中心店	1	2	8	19	19	6	55
	3.住関連中心店	2	3	3	4	5	2	19
	4.その他小売	10	1	15	6	17	29	78
	小計	20	11	41	29	43	49	193
サービス	5.飲食店(夜間遊興)	4	11	16	1	0	14	46
	6.飲食店(その他)	10	4	21	5	11	7	58
	7.理・美容院	2	2	11	0	2	5	22
	8.病院	2	3	2	2	1	9	19
	9.その他サービス	14	1	8	4	4	31	62
	小計	32	21	58	12	18	66	207
その他	10.空き店舗	4	5	26	9	6	9	59
	11.空き地	3	1	3	3	1	4	15
	12.駐車場	14	7	40	9	10	20	100
	小計	21	13	69	21	17	33	174
総計	73	45	168	62	78	148	574	

イ. 商店街別テナント構成比

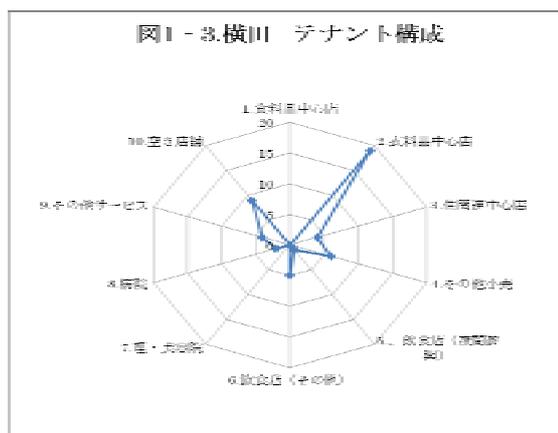
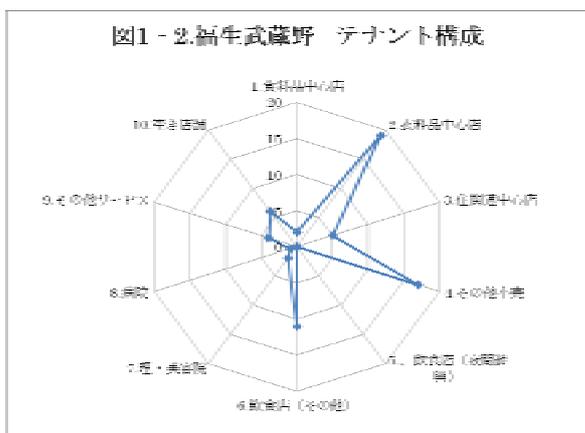
(ア) 東口駅前

東口駅前商栄会には居酒屋、スナック、パブ等といった夜間遊興飲食店やレストラン、カフェ等の飲食店が多い。後述する道路通行量調査結果によると、この商店街はサラリーマンが通勤の際に多く通行しているため、駅の近くに夜間遊興飲食店が多いことで彼らのニーズに応えられていると考えられる。また食料品を扱う小売店も多く、食に関する店が充実している。次いで多い駐車場、空き店舗については、特にビルの一角等の空きテナントが目立つ。富士見通りはいわゆる「ネオン街」といった様子で、他の通りと比べると様相が異なる。



(イ) 国道 16 号沿い

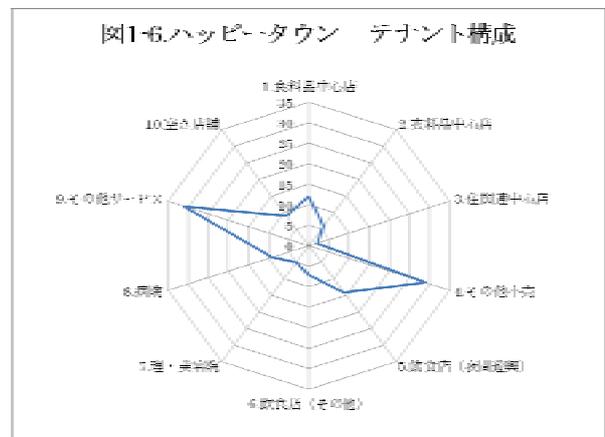
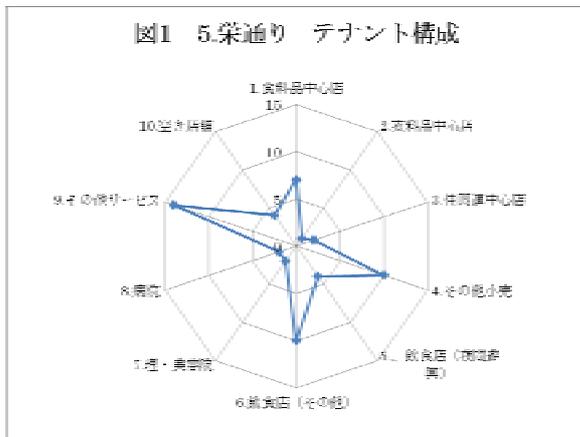
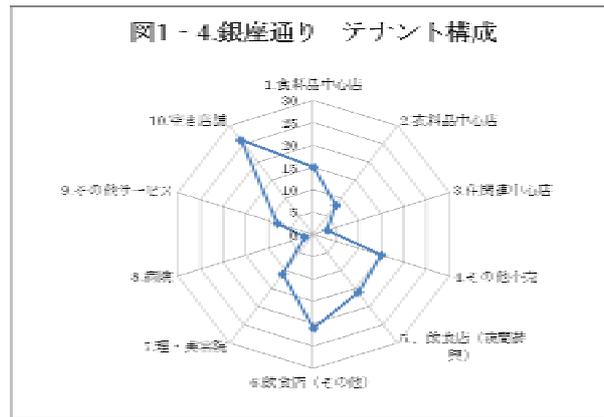
国道 16 号沿いの商店街は横田基地に近いため、異国情緒漂う雰囲気の商品、衣料品、家具、雑貨を扱う小売店や飲食店が多い。両商店街ともに、飲食店はレストランやカフェ等が多く、遊興飲食店等は少ない。駐車場が少ないが、空き店舗も少ないことは大きな強みといえる。しかし 1 つの駐車場に止められる台数が多いが駐車場の数は少なく、店によっては駐車場から遠いため、車での来街者にとって利用しにくい状態だと考えられる。



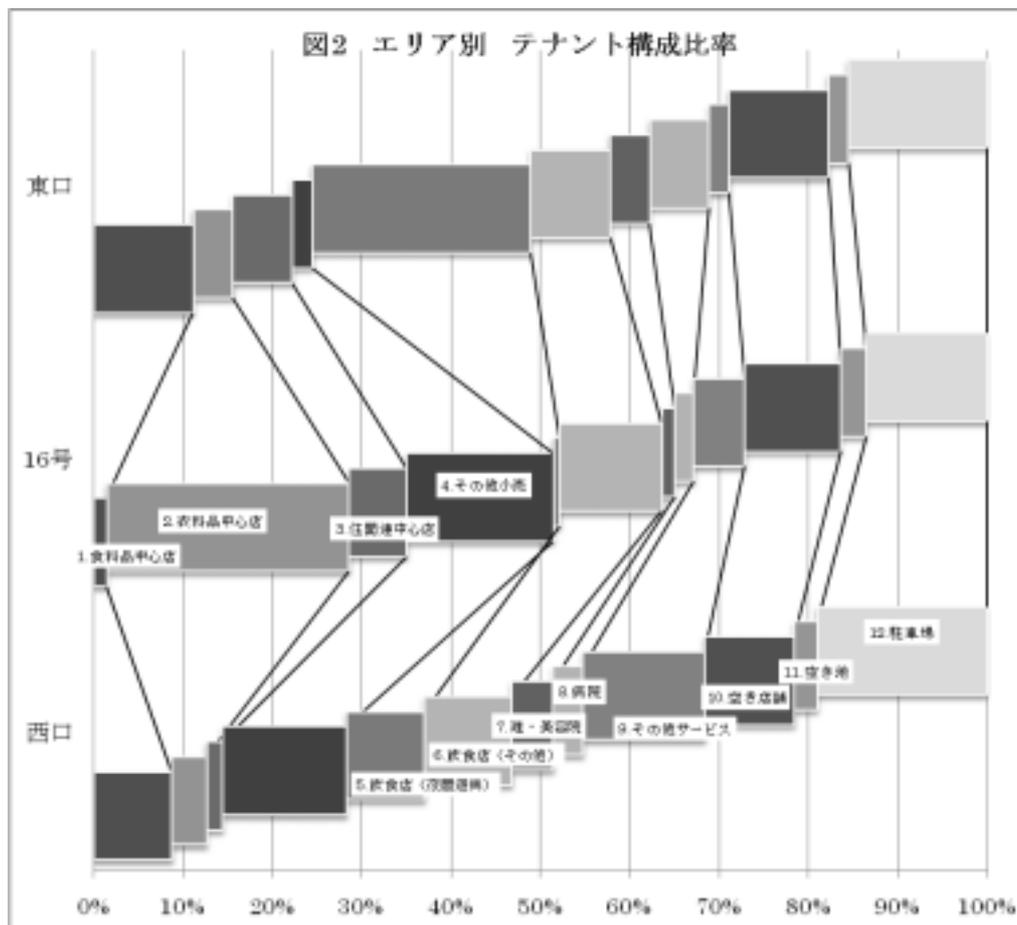
(ウ) 西口駅前 (栄通り・銀座通り・ハッピータウン)

西口商店街は、駅から近いハッピータウンには銀行・不動産等のその他サービス業が多い。駅から近い立地を利用して、生活に密接したサービスを展開していると考えられる。栄通り・銀座通りでは、後述する来街者アンケート調査結果によると、市民からの駐車場設置への要望が多くなっているが、実際には用意されている駐車場の数は多いことがわかる。また銀座通りでは、衣料品・食料品・その他小売・飲食店・その他サービス等様々な業種の店が同数程度混在しておりバランスがよい。しかし空き店舗も多く店と店の距離が離れているため、市民、特に高齢者が買い物しにくい商店街のつくりになっていると考えられる。

第 章 福生市の商業環境 1. 商店街の現状とその取り組み



(エ) エリア別 テナント構成比率



なお、テナントの位置情報・写真はGoogleサービスの地図に掲載する。
 詳細は社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩のHP参照。

<社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩HP: <http://www.nw-tama.jp/>>

(4) 商栄会等及び市・商工会の取り組み

商栄会等の取り組みは、イベントに集中している。

商店街・商栄会について

上述の通り福生市内では 12 の商栄会等を組織しており、単体もしくは共同して様々な活動を行っている。

ア. 会員等数、業種構成

各商栄会の構成員数は以下の通り。加盟総数は 479 で、市内小売業のうち 83% が 12 組織のいずれかに加盟している。組織として最も大きいのは福生駅西口に位置する「福生商店街協同組合」となっている。

	商栄会・組合名	構成員数
1	福生商店街協同組合（ハッピータウン）	72
2	銀座商栄会	65
3	銀座中央商栄会	47
4	東銀座通り商栄会	22
5	栄通り商栄会	47
6	東口駅前商栄会	22
7	牛浜商栄会	22
8	熊川商栄会	22
9	福生武蔵野商店街振興組合	39
10	横田商栄会	52
11	本八商栄会	41
12	熊川武蔵野商栄会	28
	合計	479

福生市資料より作成

イ. 主な販促活動

(ア) 福生市共通商品券

福生市内の商店で利用可能な商品券を発行。福生商品券協同組合を組織して実施しており、福生市の現在 86 店舗が加盟（福生商店街協同組合 28 店、銀座商栄会 13 店）。組合事務局・販売窓口は福生市商工会が担当している。

(イ) イベント等

昭和 26 年に商店街振興を目的に始められた「福生七夕まつり（8 月）福生駅東口方面の商栄会等が協力して実行委員会を組織する「インターナショナルフェア」、福生駅西口方面の 4 つの商店街が協力して開催する「商店街まつり」（11 月）福生駅前や国道 16 号沿いの商店街が行う「クリスマス・イルミネーション」（12 月～1 月）等をはじめ、数多くのイベントを実施している。また、複数の商栄会等で共同セールも数多

く実施している。

福生市、福生市商工会の主な商業振興活動

ア．福生市による商業振興活動

(ア) 福生市新・元気を出せ商店街振興事業補助金

東京都の助成制度を活用した補助制度。商栄街等が行うイベント事業、街路灯設置、ホームページ作成、ポイントカードの導入等の活性化事業に対し補助を行う。1/3～1/2 補助。平成 17 年度～平成 20 年度において合計 58 件、約 37 百万円の補助を実施。うち 91%がイベントもしくは共同セールとなっている。なお、平成 19 年度事業では情報発信として「福生まちかどテレビ」、駐車場設置事業として福生武蔵野商店街振興組合に対して補助を実施している。

(イ) 福生七夕まつり、ガレッジセール等

期間中には 30 万人以上が参加する福生七夕まつりは、元来商店街振興のために始められたものである。現在は福生市が主体となっており、一部業務を商工会等に委託して実施している。

(ウ) 福生市商店街振興プラン（福生市）

平成 15 年 3 月策定。別紙 1 参照

イ．福生市商工会による商業振興活動

(ア) F の店

徹底した顧客主義を貫く努力を宣言した店舗を「F の店」として認定し、福生市商工会等による各種支援を提供する商工会の制度。具体的には、加盟を希望する店舗は福生市商工会と「F の店加盟契約」を締結すると共に希望の支援を選択する。加盟料は月額 500 円で、ステッカーの使用、市民や専門家からなる「サポート隊」による経営アドバイス等が基本となっている。その他、「ホームページ開設支援」等一部有料のメニューもある。

また、まちの賑わいを作ると共に「F の店」のモデルケースを作るため、新規開業者に対して家賃補助等の様々な支援を重点投入する「新規店対策事業（F ハウス）」も併せて行い、これまで 2 店舗に対して開業支援を実施してきた。また、フリーペーパー「Fussa Paper」を毎回 5,000 部発行している。

本事業は福生市商工会 40 周年記念事業による懸賞論文「福生市商工業活性化プラン」における最優秀賞論文に基づく活動で、商工会に「F

の店推進委員会」(「活性化プラン実行委員会」から改称)を設置して実施している。

(イ) 福生市グランドデザイン(商工会)

平成 19 年 5 月策定。別紙 2 参照。

(ウ) 特産品の開発

福生市と商工会、地域金融機関が共同で資金を提供した地域活性化資金の活用事業としてスタートし、福生の新しい名物名産品を選定するため平成 18 年度にコンテストを実施。観光協会もメンバーに加わり、名物名産品の P R や普及活動を行っている。

(別紙1) 福生市商店街振興プラン(要約)

振興プラン

1. 振興プランの目的について

平成14年3月に策定した「福生市第3期基本構想」で掲げられた、「集いとにぎわいのあるまち」をつくることを目的に、新たな商店街活性化施策を展開するため、商店街関係者、消費者、学識経験者による福生市商店街振興プラン策定委員会を設置。市民や商店街関係者の意見を反映し、各商店街や地域特性と実情に応じた福生市の商業・商店街振興に関する事業の基本的な方向を示すプランを平成15年3月に策定した。

2. 振興プラン策定の基本的考え方

商業者や商栄会は原則に立ち返り、社会環境を視野に入れて、地域の消費生活者にとって必要不可欠な店や商店街となるよう努める。個別の施策を相互に連携させ、総合的に対応するとともに、革新的・意欲的に取り組む事業者や商栄会の視点に立った対応を行うことが必要。

3. 福生市商業・商店街振興の基本目標と基本方針

商業振興の基本目標

「『福』を『生』み出す魅力ある商いのまちづくり」

商業・商店街振興の基本方針

地域特性を生かしたまとまりのある商店街作りの推進

消費生活者ニーズを反映した特色、専門性のある個店づくりの推進

福生の商いを担う人材育成の推進

福生の特性、立地環境、地域資源を活用した取り組みの推進

連携や協力による魅力ある商いの場や機会づくりの推進

4. 商店街振興プロジェクト

(1) 商店街等活性化アクションプロジェクト

・活性化のための事業計画検討の場や機会の提供

・広域イベント、一店逸品運動の推進

・インターネット活用事業等の新規事業や

それに伴う人材育成、組織作り 等

(2) 魅力ある商店街環境づくりプロジェクト

・街路灯・ベンチの設置

・駐車場対策

・空き店舗の有効利用 等

- (3) 賑わいの店づくりプロジェクト
 - ・「Fの店」プロジェクトの推進 等
- (4) 福を生み出す人材育成プロジェクト
 - ・「おもてなし」研修
 - ・起業支援の充実 等
- (5) 福生の資源活用プロジェクト
 - ・七夕まつり等、地域イベントの活用
 - ・地域ブランドや回遊ルートマップの作成 等
- (6) 福生の快適環境育成プロジェクト
 - ・バリアフリー化の推進
 - ・商店街サポート隊づくり
 - ・コミュニティバスの路線開設の検討 等

5. 地域別振興の基本方針と推進事業

地域別振興の方向性を「福生駅周辺地域」、「横田基地周辺地域」、「近隣商店街地域」の3つに区分して策定した。

- ・福生駅周辺地域 福生の中心的商業地。福生の顔として特色ある中心地づくり、魅力的な雰囲気づくり、快適な商店街環境づくりに取り組む。
- ・横田基地周辺地域 独自の特徴を有する地域。アメリカの雰囲気が感じられるストリートづくりに取り組む。
- ・近隣商店街地域 住民の日常的な買い物ニーズに応える地域。地域住民の生活を支援、不可欠なサービス提供に取り組む。

6. 振興プランの推進体制

福生市商工会に設置してある「商栄会等連絡協議会」を母体に、市やその他関係者も加わり、振興プランそれぞれの事業内容を検討・推進していく。個々の具体的なメニューについては実行委員会を組織し、必要に応じて地域住民もメンバーとして参加。

資料編

1. 福生市の現況

- (1) 人口・歴史・住宅・交通・公共施設・農業・横田基地について
 - ・人口の推移は周辺の6市3町(立川・青梅・昭島・国立・羽村・あきる野・瑞穂町・日の出町・奥多摩町)と比較。
- (2) 商業、商店街の現況について
 - ・卸売業・小売業の概況は周辺の6市3町と比較。

2. 福生市の消費行動・意識調査結果

- (1) 調査目的 市民の意識、市民の買い物に関する現状を把握し、振興プラン策定のための基礎資料とする。
- (2) 調査期間 平成 14 年 7 月 15 日～7 月 30 日
- (3) 調査対象 18 歳以上の男女個人の福生市民(無作為抽出法)1,500 サンプル
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収(回収数 515 回収率 34.3%)
- (5) 調査項目 基本属性、町のイメージ、買い物行動、商店街について
- (6) 主な調査結果
 - ・生鮮食料品は牛浜駅周辺、福生駅西口周辺の中小スーパーが多い。
 - ・高級衣料品や外食等は立川駅周辺が多い。
 - ・商店街の利用頻度は「週に 1 回以上利用している」が約 50%、「ほとんど利用しない」が 16%。年代別にみると、若年層は「ほとんど利用しない」、60 歳以上が「週 2～3 回」利用している。
 - ・最も利用する商店街は福生駅西口、牛浜駅周辺。
 - ・商店街への不満は「品揃えが少ない」「駐輪・駐車場が狭い」「値段が高い」

3. 福生市高校生アンケート調査結果

- (1) 調査目的 高校生のニーズに対応した、高校生と共同できる振興プランを策定するため。
- (2) 調査期間 平成 14 年 7 月 10 日～7 月 28 日
- (3) 調査対象 福生高校 3 年生 277 人
- (4) 調査方法 授業時間内の書面配布・回収(回収数 256 回収率 92.4%)
- (5) 調査項目 基本属性、福生市とのかかわり、町のイメージ、これからの福生市・商店街について
- (6) 主な調査結果
 - ・休日によく買い物に行くのは立川。福生市居住の高校生は福生市内に行く割合が高い。
 - ・福生市への愛着度は「どちらともいえない」40%、「まあ好きだ」37%、「好きだ」13%、「好きではない、あまり好きではない」の合計が 8%。
 - ・福生のイメージは「基地があり外人が多く住む」が 64%と頭抜けて多い。次いで「七夕祭り等のイベント」が 43%。
 - ・商店街の利用頻度は 50%以上が「ほとんど利用しない」。利用する場合は「月 2～3 回」がトップ。
 - ・最もよく利用する商店街は福生西口が 53%。利用目的は日用雑貨、飲食、食料品。

4. 商店経営実態・意識調査結果

- (1) 調査目的 市内商栄会の現況、課題と対応策等を聞くことで、商栄会の商業

力を把握し、消費者ニーズに対応した振興プラン策定のための基礎資料とする。

- (2) 調査期間 平成 14 年 7 月 12 日 ~ 7 月 26 日
- (3) 調査対象 市内 13 商栄会会員 644
- (4) 調査方法 商工会の連絡経路を活用した書面配布・回収(回収数 404、回収率 62.7%)
- (5) 調査項目 店舗属性、顧客、経営状況、情報化、大型店について、商店街について、商店街活動について

(6) 主な調査結果

- ・業種の割合は小売業 46%、飲食業 23%、サービス業 16%と続く。
- ・50%以上が個人経営で、従業員数 2 人以下 30%、4 人以下 30%、10 人以下が 20%と 80%が 10 人以下。
- ・経営者年代は 50 歳以上が 65%。
- ・土地・建物自己所有が 41%、借地 20%、借地・借家 24%。
- ・後継者が「いる」28%、「いない」35%、「未定」24%。
- ・顧客層をみると、小売業では「50 歳代・主婦」「高齢者」が多く、飲食業は「成人男子」「仕事を持つ女性」が多い。
- ・利用理由は、「なじみの店」が 35%と、もっとも多く、次いで「価格が安い」「気軽に入りやすい」「品質・鮮度がよい」「品揃えが豊富」「家から近い」と続く。
- ・業績は「順調」が 13%、「不振」が 46%で、不振理由は「景気の影響」が 67%、「近所に同業者」20%、「大型店進出」19%。
- ・経営問題点のトップは「売上げの伸び悩み」
- ・大型店の影響は小売業、とりわけ熊川、牛浜の商店街での割合が大きいが、「特に対策は行ってない」とする。
- ・商店街の問題点は「駐車場不足」33%がもっとも高く、「商店街発展のために必要だと思うこと」でも「駐車場の整備」38%がトップにあげられている。

5. 市民と商店主の意識のギャップ

- ・「品揃え」と「品質・鮮度」については、商店主よりも市民の評価が厳しい。
- ・イベントやセール・催し物への関心は、市民は高く、商店主は低い。

(別紙2) 福生市商工会グランドデザイン(要約)

グランドデザイン

1. グランドデザインについて

福生市商工会は平成18年度事業として、今後10年間の商工業の活動方針を定めたグランドデザインを策定した。

2. グランドデザインの概要

「横田エアポート」の世界に広がる窓口機能を活用し、『多文化交流が活気を生む“クロスオーバータウン福生”』の実現を図る。

多文化が共生する商業ストリートの街(商人誘致、創業促進)

国際トレードで新技術・新産業を創生する街(国際トレード促進、商談施設の整備)

グローバルな未来に希望の持てる暮らしの街(日本文化・製品を送り出す窓口、世界の活気を取り入れる窓口) を目指す。

3. グランドデザイン実現の戦略

横田エアポートの徹底活用

エアポートの官民共用化の実質作りの推進、ボーダーレスなショッピング施設の整備、異文化交流拠点の設置、複数言語の案内板設置 等
世界に発信する機能を市内・多摩から結集

多摩地域企業の国際化支援として、見本市への出展支援、海外新技術等の導入支援、地元企業の製品・技術の海外売り込み支援 等

多文化共生の街づくり

外国人が住みやすい街づくり、イベント開催 等

中心市街地の活性化と生活圏の環境整備

各商店街が主体となるコンセプト作りの取り組み推進、商店街通りの美化等

4. 商業振興推進プロジェクト

(1) 賑わいを呼ぶ活性化事業の推進プロジェクト

- ・福生ブランド製品の開発
- ・賑わい連携イベントの推進
- ・生活支援サービス事業
- ・グルメの街づくり
- ・街中の清掃

- ・空き店舗の活用
- ・インターネットの活用 等

(2) 福生らしい街環境の整備プロジェクト

- ・まちなか景観の向上
- ・駐車場対策の推進 等

(3) 高齢者社会のコミュニティづくりプロジェクト

(4) 循環型社会のコミュニティづくりプロジェクト

(5) 情報サービス事業の強化

(6) IT情報化への取り組み

(7) こだわりの店づくり

- ・こだわり商品の開発や個店の近代化

(8) 個店経営の基盤強化と支援

(9) 商店街リーダーと後継者の育成

(10) 商店街サポーターの育成

5. 工業振興推進プロジェクト (省略)

6. 推進体制

企業・商工団体・指導機関・市民・市等による「福生市商工会基本計画推進委員会(仮称)」を設置。必要に応じて「ワーキング委員会」も設置。

調査研究

1. 福生市商業の現状

- ・立地 米軍横田基地が行政面積の32%を占有。
- ・人口動向 平成18年は6万1576人。2002年以降減少傾向にある世帯数は増加しているが、1世帯当たりの人員は減少し、核家族化が加速している。
- ・外国人登録者 他市部に比べ中国・韓国・朝鮮籍は少ないが、フィリピン・タイ国籍の外国人が多い。
- ・商業統計 小売業・卸売業の商店数や販売額等の平成16年データを近隣の5都市(立川市・昭島市・青梅市・あきる野市・羽村市・瑞穂町)と比べている。
人口1,000人当たりの商店数は他市と比べて数値はもっとも高い。1坪当たりの年間販売額は羽村、立川に次いで高い。
商業人口の流出入率は青梅、あきる野よりも高い。

2. 福生市商業の課題

- ・商店街の業種構成は飲食店やサービス業店舗が多く、売り上げは減少傾向にある。
- ・一部商店街は安心してゆとりを持って買い物を楽しむ環境になく、高齢者には不便になっている。
- ・国道 16 号沿い商店街には若年層の姿があるが、商店街の客層の高齢化が目立っている。
- ・商店街の人通りは少なく、売り上げに結びついていない。
- ・商店街のホームページ開設等個店情報の発信やIT活用の促進も必要。
- ・消費者と商店街の結びつきを強める参加型イベントの開催が必要。
- ・法人化による商店街組織の強化が必要。